



なりたい自分になる。そして…

Suma Press

SUMA GAKUEN Annual Schedule 2025

Junior High School 須磨学園中学校の行事レポート



SUMA GAKUEN

4月	●入学式 ●始業式 ●スプリングキャンプ（中学1年） ●オリエンテーション合宿（高校1年） ●校外学習（中学2、3年・高校1、2年） ●広島平和学習（高校3年） ●前期生徒会選挙 ●授業参観
5月	●第1回定期考査 ●健康診断 ●避難訓練
6月	●保護者会 ●合唱コンクール（中学・高校1年） ●文化祭 ●第2回定期考査
7月	●夏期特別授業 ●球技大会（高校1、3年） ●サマーキャンプ（中学2年） ●終業式 ●アメリカ短期留学（高校1年希望者） ●グローバルスタディーズプログラム（高校1年希望者） ●カナダ短期留学（高校1年希望者）
8月	●夏期特別授業 ●サマーキャンプ（中学1・3年）
9月	●始業式 ●第3回定期考査
10月	●後期生徒会選挙 ●体育祭 ●アジア研修旅行（中学2年） ●古都研修旅行（高校1年） ●東京研修旅行（高校2年） ●長崎平和学習・九州歴史探訪（中学1年） ●アメリカ研修旅行（中学3年）
11月	●創立記念日（9日） ●ヨーロッパ研修旅行（高校1年） ●第4回定期考査
12月	●芸術鑑賞会 ●冬期特別授業 ●保護者会 ●レシテーションコンテスト（中学・高校1年） ●終業式
1月	●始業式 ●TBM書き初め ●ウィンターキャンプ（中学1、2年） ●中学入試
2月	●校外学習（中学3年） ●第5回定期考査 ●春期特別授業 ●フェアウェルパーティー（高校1～3年）
3月	●高校卒業式 ●マラソン大会（高校2年） ●3.11 防災訓練 ●終業式 ●中学卒業式 ●イギリス短期留学（高校1年希望者） ●グローバルスタディーズプログラム（高校1年希望者）

※各行事は変更の可能性があります。



■ 海外研修旅行・海外短期留学

海外研修旅行（アジア・アメリカ・ヨーロッパ）には学年生徒全員で参加します。夏と春に行われる希望制の短期留学では、ハーバード大学、ブリティッシュコロンビア大学、オックスフォード大学・ケンブリッジ大学に行くことができます。

アジア研修旅行	P04
アメリカ研修旅行	P05
ヨーロッパ研修旅行	P06
ケンブリッジ大学・オックスフォード大学短期留学	P07
ハーバード大学短期留学	P08
ブリティッシュコロンビア大学短期留学	P09

■ 平和学習・国内研修旅行

長崎（中1）、広島（高3）の両地を訪問することで、原爆被害の実態を知り、平和の尊さを学びます。古都（高1）と現代の都（高2）を訪問し、日本のことを深く知ることができます。

長崎平和学習・九州歴史探訪	P10
広島平和学習	P11
古都研修旅行	P12
東京研修旅行	P13

■ キャンプ

中学3年間では自然の中でリーダーシップやチームワークを育むサマーキャンプ・ウィンターキャンプが行われます。ウィンターキャンプは、他学年と合同で行われ、縦のつながりも生まれます。

中1 サマーキャンプ（ハチ高原）	P14
中2 サマーキャンプ（岡山）	P15
中3 サマーキャンプ（高野山）	P16
ウィンターキャンプ	P17

■ 校内行事

須磨学園では、生徒たちが主体的に行動し、他学年と協力して行われる行事が多数あります。毎年行事は工夫がなされ、新しい企画も生まれていきます。

高校・中学入学式、オリエンテーション合宿、スプリングキャンプ、校外学習	P18
合唱コンクール	P19
文化祭	P20
体育祭	P21
芸術鑑賞会	P22
新年TBMと書き初め	P23
高校・中学卒業式	P24

※作文はすべて昨年度書かれたものです。



S1生はロサンゼルス・オーランド・ニューヨークを巡るアメリカ横断の旅へ。アメリカならではのスケールを体感してきました。

外から見るか体験するか
今回のアメリカ研修で一番心に残っていることは、やはりNASAのケネディ宇宙センターでの見学と宇宙飛行士の方による講話です。アメリカ研修旅行は、自分が須磨学園に入学したいと思うようになった要因の一つでもあったため、やっと願いが達成されたと感じ、とても満足しました。普通であれば入れないようなところに入ることができて見たり聞いたりしたものは、いい思い出として心に残ると思います。



(中3)

アメリカについてまず感じたことは、日本とは全くと言っていいほど町を歩く人々が違うことでした。非常に陽気な人が多く、些細なことで盛り上がりたり楽しめたりすることのできる人が多い印象でした。そしてやはり目を疑うのが土地の広さで、ロサンゼルスからオーランドに移動して、3時間の時差があるのに同じ国の中から出ていないという事実に驚き、南北にも広いため、ニューヨークに移動したときの気温の変化には驚かされました。それだけ広大な土地があることも、アメリカ人の性格に影響していると思われるところがあるため、外国の歴史について学ぶだけでなく、実際に現地に行ってみることが一番の学びとなりうると思いました。

宇宙飛行士の講話をしてくださったトーマスさんが、何度も何度も宇宙飛行士の選抜に落ち、そのたびに自分には何が必要なのか、選抜する側が求めているものは何かということを考え、何度も何度も挑戦していたという姿に感動しました。ただがむしゃらになって努力するだけでなく、効率的に努力するために頭を使うという姿勢を教訓とし、今後の人生に生かしていければよいと思いました。

今回の学校交流会では、ロサンゼルス、ニューヨークどちらの学校も交流相手にアメリカの学校生活や学校を紹介してもらいながら交流するという形式であったため、アメリカの学校事情などを知ることができて非常に有意義なものになったと思います。今回初めてプレゼンメンバーとしてプレゼンをしました。が、日本語ではないというだけで緊張感が段違いで、そのプレゼンを聞くのが英語を母国語とするような人ばかりであったため、なおさら気を遣うことが多くあった気がします。しかしプレゼンをしたからこそ気づけたことも多く、ヨーロッパ研修でまたプレゼンの機会があれば挑戦したいと思います。出し物のダンスも練習時間が多く取れているわけではなかったため、最後の最後まで不安が少し残っていましたが、しっかりと楽しんでくれていて安心しました。海外についての知識をつけるだけでなく、実際に行くことでわかることも多いため、経験は何よりも代えがたいものであると気づけました。



ケネディ宇宙センターでは、元宇宙飛行士の方から貴重な体験談を聞き、チャレンジすることの大切さを学びました。



今回の研修では2つの学校と交流会を実施。ロサンゼルス、ニューヨークどちらの学校も交流相手にアメリカの学校生活や学校を紹介してもらいながら交流するという形式であったため、アメリカの学校事情などを知ることができて非常に有意義なものになったと思います。今回初めてプレゼンメンバーとしてプレゼンをしました。が、日本語ではないというだけで緊張感が段違いで、そのプレゼンを聞くのが英語を母国語とするような人ばかりであったため、なおさら気を遣うことが多くあった気がします。しかしプレゼンをしたからこそ気づけたことも多く、ヨーロッパ研修でまたプレゼンの機会があれば挑戦したいと思います。出し物のダンスも練習時間が多く取れているわけではなかったため、最後の最後まで不安が少し残っていましたが、しっかりと楽しんでくれていて安心しました。海外についての知識をつけるだけでなく、実際に行くことでわかることも多いため、経験は何よりも代えがたいものであると気づけました。



ロサンゼルス、ニューヨークどちらの学校も交流相手にアメリカの学校生活や学校を紹介してもらいながら交流するという形式であったため、アメリカの学校事情などを知ることができて非常に有意義なものになったと思います。今回初めてプレゼンメンバーとしてプレゼンをしました。が、日本語ではないというだけで緊張感が段違いで、そのプレゼンを聞くのが英語を母国語とするような人ばかりであったため、なおさら気を遣うことが多くあった気がします。しかしプレゼンをしたからこそ気づけたことも多く、ヨーロッパ研修でまたプレゼンの機会があれば挑戦したいと思います。出し物のダンスも練習時間が多く取れているわけではなかったため、最後の最後まで不安が少し残っていましたが、しっかりと楽しんでくれていて安心しました。海外についての知識をつけるだけでなく、実際に行くことでわかることも多いため、経験は何よりも代えがたいものであると気づけました。



世界貿易センター跡地にある9.11メモリアル。犠牲となった方々の名前が刻まれた碑を前に平和とはなにかを考えました。



メトロポリタン美術館では西洋美術やエジプト古代美術など、数多くの芸術品に触れました。



ニューヨークではBASIS Independent Brooklynと学校交流し、現地生徒とグループで体験授業を受けました。



初の海外研修旅行。行先はベトナム・マレーシア・シンガポールの3カ国。アジアの一員としての日本を知り、各国の文化に触れました。



(中2)

二つの交流会で学んだこと
実を言うとアジア研修に行く前私の心は憂鬱だった。周りの大人に聞かされた過去のアジアについての印象や、インターネット上の不確かな情報は私の心に鉛のようにのしかかり、私のアジアへのイメージは薄暗く、犯罪が蔓延する、私の生きてきた世界とは違う未知で恐ろしい物へと変貌させた。

だが、空港を出た瞬間、私の心配はどこかへ吹き飛んでしまった。温暖な空気が頬を撫で、周囲を見渡すと、色鮮やかな衣装を身にまとった人々が忙しそうに行き交い、多種多様な言葉があちらこちらから聞こえてきた。たった一瞬のアイコンタクトでも、心の交流を感じることができ、異なる文化や背景を持ちながらも、共通の人間らしさがそこにあることを実感させられた。私のイメージと180度かけ離れた真のアジアの姿に、自分の考えはあまりにも杞憂だった。しかし、夜が更けていくにつれ、私の心はまた暗い雲に覆われた空のようにだんだんと重苦しい物となっていた。初めての交流会で見知らぬ人と交流するという日本語でも難しいことを英語でなんて。朝、限のひどい私の顔を見て、また一段と気が沈んだ。

交流会会場につき、隣に座った少年の顔を見て、私は緊張で口か

ら心臓が飛び出しそうになった。たどたどしいながらも喋り出しているクラスメートたちと、前を向いて一言も話さない私たちを比べ、私の心は焦りでいっぱいになった。プレゼント交換のとき私は手に持った自分のお土産を見て咄嗟に「Do you know Conan?」と聞いた。すると、彼はとても嬉しそうに、また緊張しているのか口早に、日本のアニメの名探偵コナンについて話し始めたのだ。面食らって言葉を発せない私を見て、理解できていないのかと心配した彼は、ジェスチャーや動きで私に理解してもらおうと努力していた。その姿を見て私は自然と笑顔になった。みな緊張しているがそれ以上に相手と話したいという心が強くあると思う。理解できない言葉や認識の違いなど様々な壁はあったが、文化や背景を理解し、相手に寄り添う姿勢を持つことで言葉が通じない私たちでも互いに壁を越え歩みよることができたと感じた。

アジア研修を通じて、私が最も強く感じたのは、経験してみないとわからないということだ。最初にあったアジアの暗いイメージは現地へ訪れると鮮やかな物へと変わり、英語が上手でないならコミュニケーションはできないということとは全くの間違ひであることを知った。まずいと思い込んでいた料理も全て経験すると新しい見方が生まれてくる。これはこれからの研修や学校生活そして、社会生活にも言えると思う。参加しよ



ベトナム戦争時に作られた地下トンネルに入り、過酷な戦争について知ったクチトンネル。



ベトナム現地校との交流会では、英語でのプレゼンや合唱を通じ日本の文化を伝えました。



B&S(Brothers&Sisters) 研修では、シンガポールの大学生と市街地散策！



交流会はマレーシアでも実施。パティの生徒と英語で積極的にコミュニケーション！

うとしなかったソーラン節やプレゼンも参加し、経験してみれば新しい学びや友情があったのかもしれない。これからの自分の生き方に、良い影響を与える考えを学べた気がする。

研修を通じて得た知識や考え方は、私の人生において非常に貴重な経験だ。これからの学校生活や研修活動での経験を見落とさず、自分の学びとして生かしていきたい。



マレーシアではピンクモスクや海峽モスクを訪れ、荘厳な礼拝堂の雰囲気にも圧倒されました。



カナダ・ブリティッシュコロンビア大学 (UBC) にて、15日間の短期留学を行いました。カナダの雄大な自然と多様性を認める文化に触れ、大きな成長につながりました。

一生の思い出になった
カナダ留学

帰国から二週間が経ち、私はこの留学に行って良かったと心から感じた。それには主に三つの理由がある。

一つ目は、初対面の人と積極的



(高1)

の須磨・夙川や中高一貫生・高収入学生というくりに関係なく、みんなで楽しく過ごしたように思う。今回仲良くなった友達とこれからも長く仲良くしたい。

二つ目は、英語で話す怖さをあまり感じなくなったからだ。元々英語を話すことが苦手で、これまでの海外研修で現地の人と英語で話す機会があっても、文法を意識しすぎてしまい話そうと思ってもすぐ言葉が出てこなかったり、自分からはあまり話せなかったりした。だが今回の留学では、文法が正しくなくても発音が完璧でなくても、ジェスチャーや伝えようとする気持ちがあれば相手に伝わるということを実感し、徐々に怖さを感じなくなり、文法や発音を頭の中で考えるよりも先に話し始め

ていた。話しながら言葉につかえることがあっても、先生やバディ達が助けてくださったたり、何とか理解しようとしてくださったたりした。先生やバディだけでなく、カナダの高校生とも話をする機会があったが、その時も自分から質問をしたりして、英語でコミュニケーションをとる楽しさを感じた。

三つ目はカナダの観光地にたくさん行けたからだ。スタンレーパークでは自然に囲まれて澄んだ空気を吸い、リラックスすることができたし、グランビルアイランドでは日本にはないカラフルな雰囲気を楽しんだ。また、シーバスに乗って移動し、ノースバンクーバーで市内を観光したりお土産を買ったりした。平日は大学内で活動することが多かったため、週末に大学の外に行ったりフレッシュできたし、都会の雰囲気を感じられたので良かった。また、カナダの歴史を学べたというのも理由の一つである。この留学でカナダの先住民であるファーストネーションについて色々なことを学んだ。昔、先住民はひどい扱いを受け、子ども達はヨーロッパ文化に同化するため寄宿学校に通わされていた。そこでは彼らの文化・言語は禁止され、キリスト教を強制させられ、家族とも離れ離れにされた。兄弟であっても異性と接触すれば罰せられたと知り、衝撃を受けた。何も知らないまま家族と離され、寄宿学校に連れていかれた子ども達のことを思うととても胸が苦しく



教室外にも飛び出して学習します！人物当てゲームを通して、英語表現を増やしていきます。



留学最後には、1分間でスピーチ！ボディランゲージも使って留学での成長を発表。



ディベートに向けて、自然な英語表現を教えるらしい、リハーサルも重ねました。



エコツアーでは、日本では見られない動物や植物の説明を聞き、豊かな自然に触れました。



今回の短期留学のテーマは、映画制作。初めて出会う人たちとともに、自分たちが考えたストーリーで何を伝えたいのかを考えていきます。



(高1)

世界有数の大学の学生と
出会えて

今回の東海岸短期留学プログラムは、例年のプログラムの中でも特にタフなものだったと思う。行きの飛行機トラブルでボストンと千キロメートルも離れたデトロイトに滞在することになったりとは誰も思わなかったし、そこでサブウェイのサンドイッチを食べたり、ピザ屋で隣席の人たちからおすそ分けをもらったりするとも全く思わなかった。しかし、その中で後半私がハーバードとMIT(マサチューセッツ工科大学)を訪れて感じたことは、そこまでのタフだった経験の何倍も脳内に

強く刻み込まれた。

ボストン到着後、私たちはハーバード大学を中心に、ボストン市街の探索や大学見学、フィルムメイキングに取り組んだ。また、食事はハーバード大のダイニングホールで食べた。その過程で、多くのハーバード大生やMIT生と話す機会を得た。その中で、私の彼らへのステレオタイプが崩れていった。そのステレオタイプとは、「ハーバード大生やMIT生のような世界最高峰の学生は、常に最高の結果を求めて身を削って努力し続けている」ということだ。最高の結果を求めて努力しているのはもちろん確かだ。夏休みにも関わらず多くの人が大学に残り研究や議論を行っていた。しかし、「身を削って」いる人はいなかった。

ダイニングホール前やMITの研

究施設の一階に置かれていた卓球コートでは、常に誰かが卓球を楽しんでいた。また広い芝生スペースがあり、多くの学生がそこでバレーボールやスパイクボールというアメリカ発祥のスポーツをしていた。MITの研究施設では、会議室を覗いてみたら、画面に映しているのはミームで、彼らはミーム鑑賞会をしていたのだと分かったこともあった。ガイドの方に連れていってもらった地下通路では、MITの学生がその壁面を描く伝統があった。

彼らは全員サボっているのだろうか。いや、彼らは世界最高峰の大学生だ。私はこれまで、彼らはずっと勉強をしているのだと思っていた。アメリカは高校までの勉強がゆるい分、大学に入ってから勉強が厳しいという話も聞いたことがあったからだ。しかし現実、彼らは大学生活をエンジョイしていた。そして私は自分の考え方の間違いに気づいた。それは、身を削る必要はないということだ。私は何でもパーフェクトを求めてしまう性格だったが、この東海岸短期留学プログラムを通じて私が一番成長できたのはこの考えを改善できたことだと思う。

そしてこれからは、この考え方をもっと多くの人に広めていきたい。日本には多くのかつての私のような考え方を持っている人がいる。彼らに私が得た価値観を広めることができる。この留学の値打ちは更に大きなものになるだろう。これから私は、今回の経験を常に脳裏に置いておき、それだけではなく発信していこうと思う。



映画制作を学ぶ「New York Film Academy (NYFA)」のスタートです！



大学院生らとのあいさつ後、ボストン市内を一緒に回る計画を立てます。



大学内のダイニングホールは、多くの学生が集い交流の大きなチャンス！



マサチューセッツ工科大学にも訪問。研究内容や寮生活についてなど学生に質問しました。



グループごとに映画制作！あらすじを考えた後は監督やカメラ担当など役割決めます。



J1(中1)の長崎に始まり、V2(高3)の広島で終わる平和教育。被ばく地を実際に訪れ、戦争の悲惨さを知り、平和の尊さを感じます。

広島での現地研修を経て、J1のころから行っていた一連の平和学習を終えました。広島に実際に訪れて最初に感じたことは、海外から来たと思われる方が非常に多かったことでした。以前からニュースでヒロシマを訪れる外国人観光客が増加しているというのを耳にしていたのですが、予想以上に海外の方が多かった印象を受けました。小学校6年生の時に一度広島を訪れたことがあります。その時と比較してもかなり増えている

過去と未来を紡ぐ



(高3)

と感じました。よく「怒りの広島」というフレーズを耳にします。近年のウクライナへの侵攻などの世界情勢により平和への機運が高まっているのも理由として考えられますが、そもそも、海外の方がヒロシマへ行ってみようと考えてるきっかけは広島や日本の人々の平和への姿勢が外国の方々に波及したからだろうと思います。一方、長崎は「祈りの長崎」と言われています。確かにJ1の時に訪れた長崎と広島では被ばく都市としての原爆に対する運動は雰囲気違ったように感じました。「怒り」と「祈り」。どちらが良いという話をしたいのではなく、私たちが平和を大切にすることを携っていれば、その心は伝播されていくということを感じました。

広島では市内の小学校の一部が資料館として残されていたり、広島に住んでいる私の知り合いには平和活動をしている学生もいます。そのような広島での平和教育などの地道な活動が大切だと思います。そもそも平和とはどのような状態を指すのか、自分に何ができるの

のおばさんに「もう一度、うどんを食ってくるよ」と言い残し出撃し戦死しましたが、その日の夜に一匹のほたるが食堂に姿を現し、おばさんはそのほたるを見てほたるは宮川君だと思い涙を流したという作品でした。私は戦争を体験しているわけでもないのに、やはり戦争というものは恐ろしいものだと感じ涙がでてきました。若い人たちがたくさん命を落とし、その内の一人として宮川君がいて、罪もない人たちのたくさん命が奪われたことが私にとってすごく辛かったです。

そして、最後に「目で見る」「肌で感じる」ということで資料館を回りました。特に最後の手紙は私の心をつかみました。妹への愛を綴った手紙や家族への感謝の手紙などたくさん手紙がありました。資料館を回っていると、つい目の前にある資料(兵隊について)しか考えが回らなくなることがあるのですが、最後の手紙を見て私は、一人ひとりには家族がいて本当に多くの人が悲しい気持ちになったんだなと資料の裏側の気持ちまで考えさせられました。

このように「目で見る」「肌で聞く」「肌で感じる」ということを通してたくさん自分のものとして身につけることができました。私は、戦争をしてもいいことがないし、多くの人の命を奪うくらいなら戦争はしないほうがいいと思います。時代が変わっても人は戦争を続けるおろかな存在です。

広島に行く数日前には被爆体験伝承者の方からのお話がありました。語り部さんのおばさんや祖母さんが被ばくした経験を私たちに伝えてくださいました。語り部さんなどがごんどん高齢になられる今、後の世代に平和を伝えることは私たちにかけついています。今がまさに過去と未来を繋ぐターニングポイントだと思います。

広島平和記念資料館の中で一番考えさせられた展示物は「被ばく者の死亡証明書」でした。今まで平和学習をして被ばくされた方々の思いなどをたくさん聞いてきました。でも、実際に自分がその時代を生きていたわけではないので、少し他人事だと思っていました。しかし、遺族に渡されたであろう死亡証明書を見ると、本当に原爆で亡くなった方がいるのだな、と実感しました。その死亡証明書を書いた医者やそれを渡された人の心情などを考えると、心が痛みました。自分の拙い日本語では言語化が難しい部分がありますが、このような痛ましい思いをしている人が今も世界のどこかにいるのだということ意識しながら日々を過ごしたいと思います。

でも私はそんなおろかな人間にはなりたくないです。これからの世界をどう動かしていくのか、人生を、夢を奪う戦争はどうなるのか。



展示を見て、事前に聞いた平和講話を思い出したと感想を述べる生徒も。凄惨な被害の実態を心に刻みました。



袋町小学校平和資料館や本川小学校平和資料館を訪問し、被害の大きさを肌で感じました。

かを考えながら、まずは自分の周りの人を大切にすることから始めてみたいと思います。



平和を学ぶとともに、九州の歴史にも触れます。佐賀では吉野ヶ里遺跡を見学。弥生時代当時の暮らしぶりを想像しました。



長崎・爆心地公園での平和セレモニー。千羽鶴を納め平和を祈りました。

でも私はそんなおろかな人間にはなりたくないです。これからの世界をどう動かしていくのか、人生を、夢を奪う戦争はどうなるのか。



平和学習の集大成となった今回。自分たちに何ができるのか真剣に考える機会となりました。



平和記念公園で行われた追悼セレモニーでは、平和の願いを込めて、黙とう。



その後は、原爆ドームへ。広島象徴ともいえるその姿に、息をのみました。



太宰府天満宮では、学業成就を祈願しておみくじを引いたり、お守りを購入したりしました。



九州国立博物館では、「世界との結びつき」をテーマに九州にまつわる展示物を見学。



福岡・大刀洗平和記念館では、特攻隊について見聞きし、戦争の恐ろしさを肌で感じました。



(中1)

人生を、夢を奪う戦争
私は三泊四日たくさんさんの実物を「目で見る」「耳で聞く」「肌で感じる」ということを通して教科書やインターネット、本からは伝わらないものをたくさん自分のものとして身につけることができました。そして、その中でもっとも私が印象に残った大刀洗平和記念館について紹介します。

まず、最初に「目で見る」「耳で聞く」ということ、映像を見ました。当時戦争中は今と違い皆が兵隊になりたいという夢を持っていたし

た。それをかなえるために軍学校に入った人が多かったものの練習が厳しく、やめたいという人が少なからずいたと知り、教育によって将来の夢は兵隊になるというところまでは洗脳することができて、やはり一人ひとりの意思までは洗脳することはできないんだなと実感しました。また、最後におばあちゃんが孫に平和の大切さを語りつづけるシーンをみて今度は孫から次の世代へと平和の大切さを語りついで一人でも多くの人が心の底から平和について思うようになったらいいなと自分におきかえて見ていました。



J1 学年研修旅行の目的地は九州。被爆地・長崎で平和について考えました。佐賀や福岡では九州の歴史に触れることができました。



高校1年次から続く首都探訪シリーズの締めくくり。古都と現代の都のちがいを学びます。また企業や政府機関、大学などを訪問します。

僕は日本の首都、東京を訪れて、これまでに見てきた日本の他都市とは全く異なる姿を東京が持っていることを知り、また大都市として重要な役割を担っていることを学んだ。

日本の他都市と比べて最も異質だと感じたのは、班別研修等で巡り歩いて認識した、都市の規模の大きさだ。渋谷、新宿、丸の内、秋葉原など、各エリアごとに特色を持ちながら、いずれも大阪、梅

首都としての姿と役割



(高2)

田周辺と同じくらいビルが立ち並んでいた、人が行き交っていた。関東平野に、日本の総人口の三分の一の四千万人がいる、と学園長先生のお話にもあったように非常に多くの人口が、これらの大都市を支えているのだろうと感じた。また、神戸や大阪とは比べものにならない程の電車の路線があり、大都市としての違いを認識した。他には、東京は地域によってその都市が果たす機能が大きく異なっていたことだ。都市機能が集中している東京は、丸の内など東京駅周辺に企業が集まっていたり、最新の流行が生み出されていく原宿、観光客で賑わう渋谷、若者を中心に栄え繁華街が集まる新宿周辺など、地域によって特色がはっ

から法話を聴かせていただきました。仏教の教えを現代の技術や発想に繋げるという視点が、私にとって新鮮なものでした。現在の日本は無宗教の人も多いですが、かつての日本は仏教と繋がりがこれほど強かったんだと思うと、仏教の中でも色々な宗派がある中で自分にピッタリなものを見つけ学んでみたいと思います。また、お坊さんの法話の中に「無我」という言葉の説明がありました。他人のために生きる「無」、自分のために生きる「我」、この二つの「間」に本当の自分を見つけることが大切だとおっしゃっていました。私もクラス委員長を始めた時、「ほんまにできるん？」とか、「一人で走って行っちゃいそう」とか思われてそうだなと思っていました。「我」が強すぎたのかも知れませんが、そこから、他人に気を配ることや、みんなの意見をしっかりと聞くということを意識すると、周りが少しは私を認めてくれたような気がしました。「間」に近づけたと思います。これからも「我」と「無」の「間」のどこにいいのがあるのか意識しながら、チャンスをとんどんつかめるように行動していきたいなと思いました。

二日目は京都へ行きました。京都には年に一回程度行くのですが夜、京都で過ごしたのは初めてでした。きらきらと波立つ鴨川はとてもきれいでした。班行動では疲れていても笑うことと歴史を感じることが忘れずに京都を楽しむことができました。

きりしているという印象を受けた。地域によってその機能が異なることで、初めて来る人にも、どこに行けば良いか等がはっきりしているし、企業が集うことで効率化できているのだと思った。そのような姿を持つ、日本の首都であるからこそ、そこには多くの責任と役割があるのだと思った。まず一番は、人口の十パーセント以上を抱える都市、司法、立法、行政の最高機関が集約されている都市として、政治、経済の面で日本を引っ張っていくことだと思う。内閣がというより、東京都が、地方公共団体として他府県の政治をリードしていく責任があるのだと思った。経済的な面においても、数多くの企業が集まり、労働人口や大学生もたくさんいる東京が経済的に発展していくことは、他地域が、そして日本国がより発展していく最も簡単な方法ではないのかと考えた。

また、今回僕が訪問したJAXAをはじめとして、科学技術についての研究開発の最先端も、東京にあると思う。先進国の一角として新たな技術の開発にも努める必要があると思うので、東大などもあり、環境が整っている東京が、日本の、そして世界の科学技術の発展に寄与する役割があると思った。

JAXAでは、日本の航空宇宙産業を索引する企業の、現在の研究内容や、これからの展望などに

ここまで述べてきたように、日本の首都東京には、実際に見なければ感じられないような他都市との違いがあり、そんな大都市だからこそ、率先して果たさなければならぬ役割と責任があるのだと思った。日本、ひいては世界を代表する大都市として、これからも発展を続けていってほしいと思う。そしてまた、進学先が決まってから、もう一度訪れたい。

日本科学未来館でも科学技術について学ぶことができたが、iPS細胞や素粒子など自分の興味のある内容で、とても良い知見を得られた。地震や火山といった自然災害発生時に、危険因子がどのように人間やその建造物に影響し、その影響が伝播していくかをモデル化した展示があったが、一人亡くなる、ドミノ倒しのように人が亡くなったり、人が亡くなると二酸化炭素の排出が減ったりと、各事象のつながりを見ることができた。

ついて知ることができ、現在はISS(国際宇宙ステーション)のきぼう棟での実験や物資補給にとどまっているが将来的には月への有人飛行、そして火星への挑戦が目指されていることが分かった。他にも、人命救助に際するドローンとヘリコプターの運用方法など、多岐にわたる研究で、日本の科学技術の発展を引っ張っていることが分かった。



日本科学未来館では、生物、物理、宇宙など最先端の研究に触れました。



キャリア教育で東京証券取引所、日本銀行、JAXAなどを見学。



スカイツリーから都内や関東平野を眺めました。



日本の首都があった飛鳥・奈良・京都・大阪を巡り、現代日本の礎を学ぶ2泊3日の研修旅行。日本の成り立ち、文化について学びます。



(高1)

日本の古都

古都研修では、奈良・京都・大阪の歴史を感じました。千年以上前の天皇や人々もこの同じ土地を眺めていたのだ、そしてその土地は、華やかであったころも、血がたくさん流れていたころも見えたのだなど改めて感じると、まさにそれが歴史だなど思いました。そして千年以上前に建てられた建造物が美しい状態で残されている、それを、現在を生きる私たちが見て感動することができる、これもまた歴史の美しさなのだなと思

一日目は奈良に行きました。奈良は小学校の修学旅行でも訪れたことがあった土地で、懐かしさを感じながら楽しむことができました。特に印象に残ったのは飛鳥寺と薬師寺です。飛鳥寺は日本最古といわれている「飛鳥大仏」があります。何度も火災に遭っているのに現在まで残っているこの大仏は相当なパワーを持っているはずなので、写真でもいいからたくさんの人にってもらいたいという願望から写真撮影が許可されたそうです。明日香村はとても見晴らしの良い場所でした。飛鳥寺が造られた時から現在までたくさんの方が参拝しに来ていて、その一員に私もなれたと思うと少しうれしかったです。薬師寺ではお坊さん

から法話を聴かせていただきました。仏教の教えを現代の技術や発想に繋げるという視点が、私にとって新鮮なものでした。現在の日本は無宗教の人も多いですが、かつての日本は仏教と繋がりがこれほど強かったんだと思うと、仏教の中でも色々な宗派がある中で自分にピッタリなものを見つけ学んでみたいと思います。また、お坊さんの法話の中に「無我」という言葉の説明がありました。他人のために生きる「無」、自分のために生きる「我」、この二つの「間」に本当の自分を見つけることが大切だとおっしゃっていました。私もクラス委員長を始めた時、「ほんまにできるん？」とか、「一人で走って行っちゃいそう」とか思われてそうだなと思っていました。「我」が強すぎたのかも知れませんが、そこから、他人に気を配ることや、みんなの意見をしっかりと聞くということを意識すると、周りが少しは私を認めてくれたような気がしました。「間」に近づけたと思います。これからも「我」と「無」の「間」のどこにいいのがあるのか意識しながら、チャンスをとんどんつかめるように行動していきたいなと思いました。



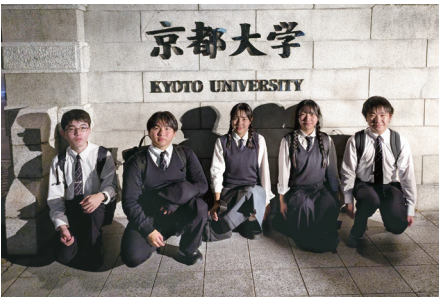
聖徳太子生誕の地・橘寺。目線を変え、天井を見上げると…。



公園内に広がる巨大な神殿や門。一気に奈良時代へタイムスリップ。



大阪では、難波宮跡と大阪歴史博物館を訪問。



時間をフル活用して、市内をくまなく巡りなかには大学見学する班も。



京都の班別行動では人気スポット巡り。やっぱり嵐山は人気。



テーマは「海」のJ2 サマーキャンプ。岡山の牛窓町で、瀬戸内海の自然に親しみながら、いかだ作りなどのさまざまな活動に取り組みます！

大きく育った協調性

僕がこのサマーキャンプで一番成長した部分は協調性だと思います。このサマーキャンプはいかだ作りや、いかだ乗り、アウトドアクッキング、レクリエーションなどの協力することが重要な行程が多くありました。別のクラスの人たちとのグループだったので、最初は打ち解けるのに時間がかかりました。けれど、打ち解けてからのチームワークに関しては全班的な中でもトップクラスのものだった



(中2)

のではないかなと思います。特に印象に残った行程はいかだ乗りです。先ほどの打ち解けてからのチームワークの中でも一番チームワークを発揮できたと思います。最初はいかだを漕ぐ息が合っていたのですが、折り返し地点についたときにみんなの気持ち切れてしまったのか全然いかだを漕ぐ息が合わなくなっていました。そしていつの間にか最下位の位置になってしまいました。そこで班の中で話し合いつつ、班長の声掛けでいかだを漕ぐ息を合わせていきました。そして、班は最初の勢いを取り戻して最下位を脱出し、かなりの速さで無事に帰ってくる事ができました。このいかだ乗りがサマーキャンプの中で



瀬戸内海での磯釣りを楽しんだり、生徒自ら魚を捌いたりしました。



夕食も役割分担をして生徒たちの手で作り上げました。自分たちで作ったごはんは格別です。



黒島に散策へ。砂の道の美しさを堪能しながら海の絶景を楽しみました。



夜は学年一体となってキャンプファイアを楽しみ、大盛り上がり。



岡山発祥の焼き物「備前焼」体験では、コップやお皿など思い思いの作品を作りました。



中学3年間を通して行われるサマーキャンプ。中学1年次にはハチ高原で夏山の自然に触れます。



(中1)

「よく分かる」ということ

私がサマーキャンプで学んだことは三つあります。

一つ目は命の大切さです。とくにそう思ったのは魚つかみの時です。自分が捕まえた魚を竹串に刺す時は、命を奪ったようでとても辛かったです。しかし、それは魚だけでなく牛や豚、鳥にも言えることで、毎日の食事で命をいただいているということをすごく実感しました。魚つかみを通して、肉

や魚を食べる時は命に感謝をして、残さず大切にいただくとう強く思いました。

二つ目は自分の役割を全うすることです。私は、食事係を担当しました。そのため食事をする十五分前に行かなければならず、自由な時間が削られて、初めのうちは辛かったです。でも、みんなのために早く配膳したり、こぼさないように丁寧に茶を注いだりすること、心がけて頑張りました。みんなが美味しそうに食べてくれるのを見て、自分が役立っている実感して仕事が楽しくなりました。そういった一人ひとりの努力が実り、最終日には表彰されてとてもうれしかったです。また、食事係

をやってみて、外食した時に、お店の人が配膳するのを当たり前のように思っていたけれど、何気なく見えるようなことにもお客さんのために色々な工夫がされていることに気づき、気づきが必要仕事だなと思いました。

三つ目は感謝の気持ちをもち、それを周りの人に返していくことです。フィールドアスレチックの時に、宿のスタッフの方々が色々なゲームを準備してくれて、楽しむことができました。また、鉢伏山の登山でも暑い中、スタッフの方に先導していただき、安全に登山することができました。そういったことに感謝し、今度は私がその感謝を周りの人にお返ししていきたいなと思いました。

今回の色々な経験により、たくさん



川での魚掴みにも挑戦！命をいただくことに感謝していただきました。



ナイフでMY 竹箸・竹串作り！キャンプ中はこれらを使って食事します。



「想い」や「自然」ととじこめてはがきを作る「とじこめーる」。夏の思い出を綴りました。



自然いっぱいハチ高原は、見て、触れて学べる素材の宝庫。草花を採集して観察しました。



ゲームを通して、自然の中で仲間と協力し合いリーダーシップやチームワークを育みます。

とは大人になっても大事なことだと思うので、忘れないようにしたいし、日常生活に役立てていきたいです。



今年のウィンターキャンプはJ1(中1)・J2(中2) 合同で長野県の志賀高原へ。白銀の世界でスキーの技術を磨き、先輩・後輩の縦の絆も育みます。

仲間の存在
僕は今回のウィンターキャンプで、スキーについて去年よりも深く学んだと思います。今年は二回目のスキーということで、スキーに対する恐怖心はそこまでありませんでした。それでも久しぶりのスキーということで、最初の方はかなり慎重になっていました。しかし、インストラクターの方のアドバイスや滑りを見て感覚を取り戻していききました。その中でも自分に自信を与えてくれたのが友達の滑りです。スキーのインストラ



(中2)

クターの方はすごく上手でお手本になるのですが、やっぱり歴が違うということはどうしても考えてしまうので、自分にはできないと思うことが何回もありました。では自分に一番身近なお手本は誰かと考えた結果、友達でした。これまでスキーをした経験も去年のウィンターキャンプだけという人がほとんどだったので、班のみんなが滑れているなら自分も滑れるのではないかと思うことができました。そのおかげで、シュテムターンですら怪しかった自分のスキーの技術でしたが、パラレルターンも滑れるようになりました。

僕は今回のウィンターキャンプで、実行委員という仕事をしました。他の人に比べたら行事のリーダーやレクリエーションの運営に携わる方だと思うのですが、キャンプを先生方と運営するのは初めてで未知なことでした。なので、うまくできるか正直不安でした。案の定、最初の方はあまりうまくいきませんでした。誰が当番のシフトに入っているのかもあいまいで、一部のシフトにたくさんの実行委員が集中してしまっているというところもありました。しかし、その日のダメだったことはその日の夜にある会議で自分たちの悪かったところやその悪かったところをどう改善するかなどを話し合い、なるべくみんなが快適に過ごせるように改善していききました。そうすると徐々にうまくいってなかった進行がかなりスムーズになり、みんなも自分から行動するようになっていきました。ただ一つ心残りであることが雪上レクリエーションです。計画までは順調だったのですが、自分たちの準備が甘くかなり先生方に頼ってしまいました。ただこの経験は自分にとってものすごくよいものになりました。自分から行動することの大切さ、大勢の前で喋ることや、大勢の人を動かすことの難しさなど様々なことを学ぶことができました。今回のウィンターキャンプは先生方の支えの下でできたと思っているので、次回のサマーキャンプでは完全に自分達主体でできるように今回学んだことを活かしたいです。



実習はインストラクターの方の指導のもと、それぞれのレベルに合わせて取り組みます。



雪上レクリエーションで雪に親しむ生徒たち。日が落ちる頃まで全力で楽しみました。



夜には班 PM に取り組み、班ごとで目標を決めました。全員で、目指せ目標達成！



お楽しみのレクリエーションも実施。各学年大盛り上がりで、横の絆も深めました。



最終日には、ウィンターキャンプの集大成となる検定、バッジテストに挑みました。



S1 サマーキャンプは、世界遺産である高野山の文化・歴史に触れながら豊かな自然に親しみ、自主性や協調性を育みます。



(中3)

自分が将来なっていたい姿
中学最後のサマーキャンプで自分の未来について考えた出来事は二つありました。
一つめは様々なお寺の住職の方からのお話です。すべてのお話が、当たり前のことだけれども当たり前すぎて日常では気づかないことを気づかせてくださるようなものばかりで、本当に聞けて良かったなと思いました。特に印象に残っているお話は、金剛峯寺でのお話です。それは、「今から生きていく人生の中で自分の命を生かす大切

さ」のお話でした。私はこのお話を聞いて、自分は自分の命を今まで生かしてきたのだろうかと思いました。そして、私の中で「命を生かす」とはどういう意味なのだろうと思いました。私は「命を生かす」とは、自分の思うままに自由に好きなことを好きなだけして生きるのだと思いました。では、これまで命を生かしてきたかという、まだ生かしきれていないのではないかと思いました。なぜなら、今は好きなことをするために、見つけるためにいろいろな挑戦して失敗している途中だと思ったからです。私には、今挑戦している、挑戦しようと思っていることがたくさんあります。例えば、スノー

ボード、ボイスカウト、ベース、建築について学ぶなどです。将来に繋がるだろうと想像がつくものもあれば、つかないものもあります。でも、今やりたいと思っていることはできるだけやっていこうと思います。そうやって何十年後かに自分のやりたい、自分の好きなことができる事に就けていたら、それはもう命を生かせたなと感じると思います。そうになっていると嬉しいです。



高野山の世界遺産巡り。聖地・壇上伽藍では真言密教のシンボル、根本大塔を見学しました。



高野山の信仰の中心である「奥の院」を見学。行程表をもとに、班別で散策しました。



学園長講話「仕事の未来～なりたいたい自分になるために～」で、将来を真剣に考えました。



こちらは写経体験。一字一字、丁寧に書き進め、静かな環境の中で精神を集中させました。

きなものがたくさんあるからです。ですから、私は自分の好きなことを何年たってもできているような人生にしたいです。
最後に、今回のサマーキャンプでは自分の将来なりたいたい姿を考えさせられる機会が多くありました。そして、その姿を抽象的ではあるけれどしっかりと思い浮かべたなとも思いました。とても良いキャンプにできて良かったです。



摩尼山では、獣害から森林を守るための保護活動を行い、樹木を囲うネットを張りました。



神戸文化ホールにて予選が行われました。予選を勝ち抜いた4クラスが文化祭での本選へと進む歌の祭典。S1-4 が中学の部で優勝しました。

Progress

優勝はS1-4組！
合唱コンクール本選の結果発表。私のクラスは今年度、念願の優勝を果たしました。
昨年は準優勝で終わってしまい悔しかった分、今年こそは絶対に優勝したいと思っていました。
そのため、今年は前年の経験を活かしてたくさんの工夫をしました。特に、できるだけ練習時間を減らして効率の良い練習ができるように心がけていました。その際、役に立ったのが合唱コンノートというものです。これには毎日の練習の録音を家

に帰って聞き、良くなっていった部分や次の練習で直したい部分を記録していました。このノートのおかげで毎回の練習の目的が明確になり、時間を無駄にせずに効率の良い練習にすることができました。他にも大きな歌詞カードを作ってポイントを書き込んだものを黒板に貼ったり、2パートごとに分かれて練習したりと試行錯誤しながら優勝に向かって頑張りました。
そんな合唱コンクールを通して私が感じたことは、大人数をまとめることの難しさです。練習が始まったばかりの頃は思うように上達せず、私にリーダーが務まるのかと悩んだこともありました。優勝することができた今でもまだまだリーダーをするにあたって足りない部分はたくさんあります。でも、

合唱コンクール以前の私と比べると成長することができたと思っています。それは大人数をまとめる時には、リーダーの私だけの気持ちだけでなく、全員の気持ちを理解して行動しなければいけないということを学べたからです。以前の私は、とにかく練習をしなればならないという意識が強くクラスメートの気持ちを考えずに長時間練習してしまったりすることがありました。しかし、それでは上達するどころかむしろ全体としての士気を下げてしまいました。ここから、まとめる時には全員の気持ちを考える必要があるということや学ぶことができ、練習時間や方法を考え直すようになりました。それにより練習に前向きでなかった子が少しずつ参加してくれるようになり、本番では全員が大きな声で歌っていたのは印象的でした。また、このようにクラスを率いて優勝をすることができたという経験は自信に繋がりました。
先ほども書いたように、合唱コンクールにおいてクラス全体をまとめるということはとても大変です。しかし、その分毎日の練習で上達がわかるとすごく嬉しかったです。また、本番が近づくにつれてクラスの気持ちが一つになっていくのがわかり、リーダーとしてのやりがいを感じました。
来年は須磨学園生活最後の合唱コンクールになります。今年優勝できたという経験から学んだことを活かし、また優勝したいです。



練習の成果を発揮し、のびやかな歌声を披露しました。



コンクール前には、校内のあちこちから歌声が聞こえていました。



合唱に寄り添い、美しいピアノを響かせた生徒には、ベストピアニスト賞が贈られました。



授賞式で本選出場のクラスが発表されると、ワッと歓声があがりました。



初参加となるJ1(中1)学年も堂々とホールいっぱいに大きな歌声を響かせました。



須磨学園中学校第22回入学式を挙行。「なりたい自分」になるための6年間が始まります！会場の入り口では、先輩たちが新入生にコサージュを贈りました。



オリエンテーション合宿



大塚国際美術館で、芸術的感性を磨きました。



高校入学後、初めての校外学習。集団行動訓練を通して、チームワークやリーダーシップを培います。



スプリングキャンプ



最終日には玉ねぎ収穫体験も。ネットいっぱいに玉ねぎを収穫しました。



J1(中1)学年初めての宿泊行事は、淡路島へ行きました。北淡震災記念公園の野島断層保存館では、熱心にメモを取りながら見学しました。

校外学習



S1(中3)生は、班別行動で六甲山牧場や明石海峡大橋などさまざまなスポットを訪れ、兵庫県の自然や歴史、文化に触れました。



J2(中2)生は、須磨寺や須磨離宮公園など、地元須磨の名所巡り。最終目的地、須磨の海でレクリエーションも行い絆を深めました。

最高の思い出応援団

僕は今年度の体育祭で黄団の団長を務めました。

高校最後の体育祭ということもあり、全員の気持ちが高揚している中、黄団は応援団優勝という成績を収めることができました。

応援団が活動して、最初は僕自身ダンスを教えることがあまりできず、団長としてやっていくのか不安でした。しかし、団長として、声を出して雰囲気盛り上げることが徹底した結果、みんなが楽しんで活動できる応援団を作り、引っ張ることができたと思います。

高校三年生が多く、ただでさえ受験で忙しい上に、たくさん練習があった全員がとてもしんどかったと思います。

それでも、最後まで突っ走ることができたのは、応援団が楽しすぎたからだと思っています。

応援団をすることでしか味わえない達成感は何にも代えがたいものであり、確実に青春の1ページを彩ってくれていると思います。

最後までついてきてくれた団員には、感謝があります。

後輩のみんなも体育祭を全力で楽しんでください。

良い幕引き

私たちのパネル製作は、3927の正方形を書くところから始まりました。

ラストイヤーを飾るパネルは絵の得手不得手に関わらず、クラスの誰もが参加できるものにしたかった。パネル委員で頭を絞った結果、モザイク画形式としました。

弾けるほどの楽しさが伝わるような絵文字の柄の図面をドットに変換し、色ごとに塗る箇所を指示することでパネル委員がいなくとも塗り進められるようにしました。

4000近くもの正方形を書き、そして塗ることは果てしない道のりに思えますが、いやはや、実際は飛ぶように進みました。というのも、多くの級友が講座や自学の合間を縫って手伝いに来てくれたからです。「明日パネルするぞ」「ずっとやってきたいわ」と嬉しい言葉をかけてくれました。ベタ塗り界の寵児となった人もいました。

至近距離では想定していた図柄のように見えず、やや不安を覚えましたが、初めて離れた所から完成したパネルを見たときには、「おお！ちゃんと見えるー」と、その場の全員が大喜びでした。

優勝という形で最後の体育祭のパネル製作を締めくくることができて、本当に良かったです。

パネル製作をおえて

優勝の嬉しさがこみ上げたと同時に、あっという間に過ぎた一か月のことが思い出された。

体育祭一か月前、私たちが赤団だと聞いた時、何をパネルに描くかはすぐに決まった。よく赤いジャージを着ている私たちの担任の先生だ。一番苦労したのは顔を描くことで、クラスメートや先生方にアドバイスをもらいながら試行錯誤を重ね、描き切ることができた。「そっくりやん！」と言われて、パネル委員二人で喜んだことが印象に残っている。

製作には何人ものクラスメートが協力してくれた。互いにアイデアを出し合い、より迫力のある絵に仕上がった。

結果が発表された時のクラスメートの歓声で優勝の実感が湧き、嬉しさがこみ上げた。大きな一つの作品をクラスメートと作り上げたということはこれからずっと忘れないだろう。ともに試行錯誤をしたクラスメート、支えてくださった先生方に心からの感謝を伝えたい。



応援団優勝の黄団は、観客を圧倒する勢いのある演技を披露！



毎年J1生が取り組むソーラン節。今年も息が揃った演技に拍手が送られました。



6色の団が競い合う体育祭！生徒会主催の新種目も加わり、今年も熱戦が繰り広げられました。



予選を突破したクラスによる「クラス対抗リレー決勝」。号砲とともに各色一斉にスタート！



「石橋をたたいて渡れ」は、走り手と背中を貸す仲間の絆が勝負！



工夫を凝らして作られた各クラスの応援パネル。高校の部はV2-3、中学の部はS1-1が見事優勝！



軽音楽部によるライブステージでは、観客の手拍子で盛り上がりました。



演劇部の公演は、女子高生（実は天才小説家）を巡る生徒創作劇でした。

コロナ禍で中止となっていた飲食の出店が、2024年から解禁され、従来どおりに近いかたちでの実施となりました。外部からたくさんの方に来校いただき、ホスピタリティあふれる生徒たちの姿が見られました。



体育館でのステージ発表。吹奏楽部と弦楽部の合同でメドレーを披露。



生徒同士でも互いの研究を見学。それぞれの「好き」が詰まった内容に刺激を受けました。



個人研究「傑作展」では、ポスターや論文、手作り作品など見ごたえある中2から高2までの展示が勢ぞろい。理事長、学園長による選考でそれぞれ賞が決定。ダブル受賞者も。



VRゴーグルを使った手作りジェットコースター！本物さながらのスリルを体験しました。



防災がテーマのJ1(中1)プレゼン発表。「探究」の時間での調べ学習の成果を発表しました。



こちらは本格的なカードゲームで大盛り上がり。配られたカードに一喜一憂！



VRゴーグルを使った手作りジェットコースター！本物さながらのスリルを体験しました。



競技かるた部では、かるた体験を実施。部員相手に必死の表情で札をゲット！



クイズ研究会では、早押しボタンを使ったイントロクイズで盛り上がりました。



理科研究部は、静電気実験や蜚気楼の実験などを通して、理科の楽しさを伝えました。

新年TBMと書き初め

2025年 1月6日
本校

新年初めての登校日である3学期の始業式の日に、「なりたい自分」になるための新年TBM (To Be Myself) に取り組みます。丸一日かけ、さまざまなシートを活用してやりたいこと、やるべきことを書き出し、一年の目標を設定します。



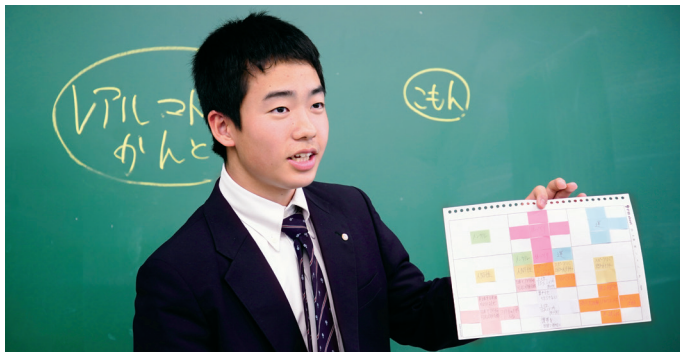
まず生徒たちが取り組むのはTBMシート。実現したいことを洗い出し、それを実現したときの自分、「なりたい自分」のイメージ図を絵にしています。



自分の心と向き合うxyzTシート。心を広く、高く、深く、あたたく持つにはどう考え行動したらよいか？クラスメートと話し合いながら書き出しました。



自分と周囲の関係を考え、何を、どのように、どれくらい行いか書き出するのがPQRSシート。日々の行動にどう反映させるか発表するクラスもありました。



「なりたい自分」になるためのプロジェクト一覧シートがProjectMandaraです。オリジナルふせんを活用し、カラフルにやるべきことを視覚化していきます。

新年TBMに取り組んで一年の目標を決めた後は、一人ひとりその思いを書き初めにしたためです。一年の始まりとなるこの日、真剣に「なりたい自分」に向き合い、決意を新たに新しい年をスタートさせます。



楷書で力強い文字を書く生徒もいれば、イラストを取り入れて個性的な作品に仕上げた生徒も。一人ひとりのオリジナリティが光る書き初めができ上がっています。



完成した書き初めは、一人ひとり前に立ってクラスで発表！今年一年の指針とする言葉をクラスメートに宣言しました。



理事長が理事長賞を選定します。力作の数々に、迷いに迷いながら決めていました。



選りすぐりの書き初めから「学園長賞」も選ばれ、各賞の受賞作品が決定。



後日、書き初め表彰式が行われました。今年も生徒たちの個性豊かな書き初めが並びました。

2024年 10月30日
神戸国際会館こくさいホール

芸術鑑賞会



(中3)

知らなかったことへの興味

僕は幼稚園から小学4年生あたりまで、宇宙に目がない子だった。図鑑などをボロボロになるまで何周も読んだり、望遠鏡を出してもらって月を見たりと、とにかく夢中だった。今回の芸術鑑賞会はその小さな頃に見ていた宇宙へのロマンを、音楽というかたちで再度感じさせてくれた会であった。

前述した通り僕は宇宙のテーマの方に興味があったので、後半の方が印象深い。序盤からの、どこかで聞いたことのある旋律、歌詞の意味がわからなくても、それでも美しい歌声と夜のような落ち着いた演奏に、背筋が思わず伸びた。あと、やはり大きかったのは演奏を生で聞いて「惑星」の魅力を確認できたことであろうか。「木星」は言わずもがな、掌々とした響きが芯までガツンときて素晴らしい。また、「金星」の管楽器から弦楽器へと演奏が徐々に切り替わっていく感じも良かった。「水星」の安定した浮遊感も、聞いていて大変驚いた。翼のある使者という題がいかにかに適合しているかよく分かった。



会場は神戸国際会館こくさいホール。本格的な舞台上で生の音を楽しみます。



創立102周年記念コンサートが開催されました。「音楽で描く地球と宇宙の風景」をテーマに、地球の多様な風景と宇宙の広がりを音楽で旅します。

選曲について、全体を通して聞いて思ったことがある。それは「題名やそれ以外の部分は知らないけれど聞いたことある曲」が多かったことだ。特に聞いて「これか！」となったのはリヒャルト・シュトラウスの「ツァラトゥストラはかく語りき」であった。あの優雅な演奏がこんな題名をしていたとは、今回の芸術鑑賞会が無ければ当分先まで知ることはなかったであろう。他にも「新世界より」や「ファンタジー」など、そのフレーズは聞きなじみがあるのにその他の部分を知らなかった曲が多かった。今後は、聞いたことあるな、と思ったら曲を探し、見識を深めていきたいと思う。そうすれば、音楽の世界というのをより深く知ることにつながるのだろう。



スメタナの「我が祖国」より「モルダウ」。力強い演奏でモルダウ川の雄大さを感じました。



プロの演奏を聴く貴重な機会に、期待に胸を膨らませながら開演を待ちます。

今回は非常に知的好奇心を掻き立てられるような会で、中学三年間のうち一番素晴らしいと思ったように感じられた。知らなかった曲名を知ることができて、幼い頃の夢も思い出すことができた。今後に生かすべきことも見つかり、大変有意義であったと思う。



学園歌では管弦楽部の生徒がプロと共演。憧れの方々と同じ舞台上に立ちました。



アンコールでは、生徒全員で学園歌を歌唱しました。気持ちを一つにして歌い、聴くだけでなく自分たちも参加して鑑賞会を作り上げました。



ホルスト作曲「惑星」より「水星」「木星」「金星」では、宇宙の無限の広がりを感じます。

校内行事

卒業式

高校



3月1日、須磨学園高等学校・学園創立第101回卒業証書授与式が行われました。中学から数え6年間過ごした学び舎を巣立っていきました。



卒業証書授与では、担任による最後の呼名に元気な声で「はい!」と応え、卒業証書を受け取りました。



今まで過ごしてきた6年を振り返り、家族、友人、教員への感謝を込めた答辞が述べられました。



入退場や学園歌、蛍の光などは、吹奏楽部と弦楽部による須磨学園オーケストラの演奏です。



卒業式後には、ホームルーム教室に移動し最後のホームルームが行われました。担任から一人ひとりに卒業証書を手渡します。

中学



3月15日、中学校の卒業式が挙行されました。中学入学から3年。卒業生たちの顔立ちも少し凛々しくなったようです。



学園長が代表生徒に「おめでとう」と声をかけ、卒業証書を手渡しました。



卒業生代表の誓いの言葉では、中学で体験したキャンパや海外研修などがかけがえのない思い出を振り返りながら、高校生活への期待と抱負が語られました。



須磨学園オーケストラの「威風堂々」の演奏と教職員の拍手に送られ、卒業生たちは須磨学園高等学校へ向け出立です。

学校説明会・見学会のご案内

いずれもお申込みが必要です。詳しくはホームページをご覧ください。
※靴袋・上履き・スリッパ等をご持参ください。 ※自家用車でのご来校はご遠慮ください。

◆オープンスクール

Web受付開始日時

9/21(日)
10/19(日)

9/ 1(日)10:00～
9/29(日)10:00～

●場所…本校

●時間…10:00～12:10

◆学校説明・入試説明会

Web受付開始日時

11/22(土)

10/27(日)10:00～

●場所…本校／Zoomライブ配信

●時間…10:00～12:00

学校説明会・見学会等の
最新情報はホームページ
をご覧ください！

<https://www.suma.ac.jp/>

